

令和5年度学校経営の改革方針

津市立芸濃中学校

【学校経営の改革方針】

1 めざす学校像

学校教育目標：夢を持ち自立に向かう生徒の育成～人を大切に～

- ◎ 明るく活気に満ちた学校
- ◎ 一人ひとりが安心して生活できる学校
- ◎ さらなる向上を目指し、お互いを高めあう学校

《目指す生徒像》

- ◎ 自ら課題を見つけ、仲間とともに議論し解決に向けて行動する生徒
- ◎ 仲間の思いに耳を傾け、安心して思いを語り合える生徒
- ◎ 地域を愛し、地域の一員として主体的に行動する生徒

『考え方』

- ① 学校教育の核は授業である
- ② 目の前の子どもの姿（集団と個）を出発点にする
- ③ チームで子どもを育てるという意識と実践《目指す生徒像》

2 現状と課題

- ① 学校生活全般において仲間とともに真剣に取り組む姿がよく見られる。授業では、タブレット端末も活用しながら仲間とともに学習活動に取り組んでいる。しかし、家庭学習については、与えられた宿題等しかできない傾向があり、家庭学習の時間が短い状況がある。自らの学習を調整しながら家庭学習を積み重ねていく力といった、汎用的な力を育む必要がある。
- ② 人権教育では、自らを振り返り、他者とつながり合う学習を推進しているが、日常生活で軽はずみな言動で他人を傷つけたり、それを周囲が傍観してしまったりする事案がある。人権課題を他人事と考えず自分事とし、人生を生きていくにあたって差別や偏見を許さない個の育成と集団づくりをより一層進める必要がある。
- ③ 学校運営協議会での協議も踏まえ、まちづくり協議会、雲林院社会教育推進委員会等の各地域団体等と連携して様々な取り組みを行い、「地域とともにある学校づくり」を進めてきた。生徒会についても町の課題や社会の課題に取り組む活動を取り入れ始めた。今後は、地域・保護者・生徒が同じテーブルで協議し、取り組む仕組みを確立していく必要がある。
- ④ 子どもの育ちを最優先に、教職員の真摯な取組により学校運営が進められている。教職員の時間外労働については、令和元年度比較で4割程度縮減されたが、示された教育委員会が示す目標値には達していない。総勤務時間縮減を進めるため、一層の工夫や精選を進める必要がある。

3 重点目標

- ① 一人ひとりの学びを保障する授業づくりと家庭学習の連動を通じた、自立(自律)した学習者の育成
- ② 他者とのかかわりによって豊かな感性と確かな実践力に基づいた、よりよく生きる力を育む教育の推進
- ③ 地域・保護者・生徒がともに考える学校づくり
- ④ 教職員の総勤務時間縮減に向けた取り組みの強化

4 具体的な行動計画 (①、②は1・2学期末にアンケート調査を実施)

- ① 一人ひとりの学びを保障する授業づくりと家庭学習の連動を通じた、自立(自律)した学習者の育成
 - ・「芸濃中授業づくりの柱」を軸に授業力向上に努め、主体的、対話的で深い学びの実現による資質・能力の育成を目指した授業研究を行い、積極的に公開する。なお、英語・数学においては、TTや少人数授業の利点を生かした指導に取り組む。
 - ・タブレット端末については必要な時に効果的に活用し、アナログ教材とのハイブリッドにより、思考を深め、考えたことを表現する力を育む。
 - ・「みんなの学習クラブ」や「けてぶれ学習法」を活用した家庭学習につながる教育を学校全体で推進し、授業と家庭学習が連動することにより平日の家庭学習における時間と質の向上を図る。
- ② 他者とのかかわりによって豊かな感性と確かな実践力に基づいた、よりよく生きる力を育む教育の推進
 - ・子どもたちの人権保障を基盤に個の育成と集団づくりを進めるとともに、学年の積みあげを大切にした取り組みを進める。
 - ・生徒に学校づくりへの主体者意識を育むために、生徒会活動の意味を周知し、社会的課題や地域の課題解決に向けた取組を進める。
 - ・保幼小中での連続した人権教育カリキュラムによる実践を推進する。
- ③ 地域・保護者・生徒がともに考える学校づくり
 - ・学校運営協議会の機能を用いて、地域の団体（PTA、まちづくり協議会、雲林院社会教育推進委員会等）との効果的な連携を進める。地域行事については、生徒会が主体的な参画できるような仕組みを構築する。
 - ・学校行事、学年行事、授業などの学校教育活動を積極的に公開する。
- ④ 教職員の総勤務時間縮減に向けた取り組み
 - ・学校部活動運営方針を遵守した部活動運営を行うとともに、すべての部の複数顧問体制や縮減した放課後の部活動時間での活動を継続する。
 - ・職員会議や研修会等の時間を60分以内とする。
 - ・学校運営協議会との議論を深め、地域との役割分担を明確化するとともに、協力して行う体制とする。